

令和3年度 英語教育充実プラン 南国市立日章 小学校		研究テーマ (英語教育推進方針)	自ら気づき、考え、コミュニケーションのできる子どもを目指して ～児童一人一人の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るための適切な学習評価の在り方について～			
年度当初の状況（4～5月調査を記載）		到達目標	年度末の到達目標達成状況（2月調査を記載）			
調査項目（意識調査の項目）			肯定的回答%	達成状況	考察	
児童	① 英語で友だちや先生と会話することが楽しい。	1 児童意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・①の項目について95%以上を目標値とする。 ・②③の項目について90%以上を目標値とする。	88.7%	① 2.7%低下	■評価規準や単元計画が曖昧だと、指導と評価も曖昧になり、児童に「必然性」や「コミュニケーションの楽しさ」を実感させる単元構成が不十分であった。評価規準を明確にすることが最重要課題である。 ■単元ゴールにおける言語活動の設定について、他教科等と関連づけながら単元計画の作成を行ったことや、様々な人と交流する機会を設定したことで、児童の「伝えたい」という思いを引き出した。 ■「日本の文化（地域のよさ）を紹介したい」の項目が、他の項目より低いのは、何を（どんなことを）伝えればよいのかが分かっていないからではないだろうか。	
	② 英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。		81.3%	② 2.1%向上		
	③ 英語を使って、日本の文化（地域の良さ）を紹介してみたいと思う。		86.6%	③ 6.5%低下		
教員	④ 学習指導要領の趣旨について理解できている。		2 教員意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・④の項目について90%以上を目標値とする。 ・⑤の項目について85%以上を目標値とする。 ・⑥の項目について90%以上を目標値とする。	66.6%		① 4.8%低下
	⑤ 学習評価の在り方について理解できている。			50.0%		② 21.4%低下
	⑥ 「新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり」等を活用して、授業の工夫・改善を行うことができている。			50.0%		③ 21.4%低下
到達目標達成のための取組		取組計画		指標達成状況		
項目	成果指標	5～2月		達成状況	年度末評価	
英語教育の推進体制の整備	◆研究会の充実・実施 一人2回以上の研究授業の実施 ◆児童意識調査 ①の項目 肯定群 90%以上 ◆教員意識調査 ⑥の項目 肯定群 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 学校、児童、地域の実態を把握し、校内研修を計画的に実施する。 校内の推進体制を見直し、研究組織の活性化を図る。メンター会を活用し、若年教員を中心に学習指導要領の趣旨理解についての充実を図る。 定期的なブロック教科会を通して、単元計画の見直しや学習活動の工夫・改善を図り、日々の授業改善に活かす。 研究授業検討会、模擬授業、研究授業、研究協議を通して、研修の充実を図る。 授業づくり部を中心に全校研や校内研修を推進し、授業改善を進める。また、参観者による授業チェックシートを活用し、授業力向上を目指す。 校区内の大湊小学校・香南中学校と日々の授業実践の情報共有を行う等、密接に連携を図ることにより、小小連携・小中連携による英語教育の向上を図る。教員意識調査「小小連携・小中連携ができています」肯定群 90% 		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修計画の中に、英語教育の研修会を複数回行い、授業改善を図った。一人2回以上の研究授業の実施（71%） 経験が浅い教員が多い中で、ブロック教科会を充実させることが難しかった。 「振り返りカード」を見直しやICTの効果的な活用方法を考えたりと、学習の評価及び授業改善に努めている。 小小連携・小中連携においては、できる限り授業研に参加し授業を見あうようにした。 	B	
英語教育の充実 (コミュニケーション能力の向上)	◆単元計画表の作成 ◆児童意識調査 ②③の項目 肯定群 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくり部を中心に単元構成を工夫し、授業の充実を図る。 カリキュラムマネジメントを重視した教科横断的な年間指導計画と単元計画表を作成する。 児童が「伝えたい」と思えるような単元ゴールの目的・場面の設定を見直し、教科横断的な視点で単元を構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 児童が「伝えたい」と意欲を喚起できるよう教科横断的な視点で単元を構成することを校内研修の中に位置づけ、授業の充実を図った。 英語につながるカリキュラムマネジメントを重視した年間計画を見直した。 	B	
英語教育の指導方法及び学習評価の工夫改善	◆評価計画の作成 ◆教員意識調査 ④の項目 肯定群 90%以上 ⑤の項目 肯定群 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに学習到達目標と観点別評価規準を明確にし、評価計画を作成する。 児童一人一人の学習状況の見取りと児童の意欲を高める学習評価の在り方についての演習型研修を実施する。 講師招聘のもと、英語教育の指導方法及び学習評価についての研修会を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> 全学年、単元と1時間毎の評価計画を作成し、児童の具体的な姿で見取りと中間評価をいれる教員の姿が見られるようになった。 講師のアドバイスをもとに、週1回英語学習会を設置し教員の指導力向上を目指した。 	C	